

2012年(平成24年)

1月16日月曜日

讀賣新聞

ことばの
肖像

秋田に伝わる伝統工芸「曲げ木」の技術と県産木材で製作した子供用木製自転車「タブレゼロワン」が、2011年度のグッドデザイン賞を受賞した。

ゼロワンにペダルはない。

両足で地面を蹴って進み、楽しながらバランス感覚を養う。価格は3万8000円。

「いつか普通の自転車に乗れるようになつたら、成長の思い出とともに、インテリアとして部屋の片隅に飾つてほしい」。形状や色など細部までこだわる大きな木のオモチャには、そんな思いも込められている。

横浜市出身。06年から首都

デザイナー 大野 英憲 さん 40(横浜市)



木製玩具には 使つた家族の 歴史や思いも刻まれる

代でデザイナーに転身した。経験も実績もなく、仕事の依頼は来ない。広告デザインの仕事で食いつないでいると、知人から「秋田で新しい建築を試そう」と誘われた。ゼロワンを出品。製品を見た人々の口から出た言葉は、「キユート」でも「クール」でもなく「ビューティフル」だった。工芸品として評価されたのが、うれしかった。昨年には経済産業省の「クール・ジャパン戦略」で海外進出を促進する製品の一つに選ばれ、今月末からフランス・パリでも展示される。

「秋田でしかできることを」と、曲げ木に注目した。イスなどによく使われる技術。当時ドイツで流行していた木製自転車にヒントを得て、全パートに曲げ木を使って、ゼロワンをデザインした。だが、原料の県産ブナ材は値が張り、製作に手間も掛かる。「バカじゃないの」「中国で安く作れ」と業界の先輩からは厳しい声が相次いだが、決意は揺るがなかった。「無謀でもいい。本当にいい物を作りたい」。約2年の試行錯誤を

目標のは、親から子、孫へと、世代を超えて受け継がれる「100年玩具」だ。IT技術と組み合わせ、誰がどこで使ってきたものか歴史を検索できるシステムをいつか開発したい、と夢は広がる。

「木製玩具には、傷とか汚れだけじゃなく、使つた家族の歴史や思いも刻まれる。それを知つた子には、必ず物を大切にする意識が芽生える。

本当の木育つて、そういうことでしょ」(工藤彩香)

インを手がける。

デザイナー歴は5年と浅い。高校卒業後は、アンティーク時計などを扱う貴金属店に就職。年を経た美品の味わいを若い人にも楽しんでほしいと、自ら海外に出向いて仕入れ、その魅力を語り続けた。だが、10年ほどで、そんな生

活にふと疑問が湧いた。「本当にこれがやりたいこと?」

その年9月、ドイツで開かれた欧州最大の自転車展示会「ヨーロパイクショー」に

経て、09年7月、完成にこぎ着けた。

その年の9月、ドイツで開かれた欧州最大の自転車展示会「ヨーロパイクショー」に